

## 1. 事業概要

- 事業名：てだこ浦西駅交通結節機能強化
- 補助金名：沖縄持続可能な交通環境構築推進事業費補助金
- 事業期間：令和6年度～令和8年度（予定）
- 事業概要：てだこ浦西駅における乗換機能の強化・利便性向上・にぎわい創出等に向け、多様な意見を取り込みながら交通結節機能強化に関する検討を行う。



## ■ 本島の骨格を形成する公共交通体系



## 2. てだこ浦西駅の整備背景

- ▶ 沖縄都市モノレール終点のてだこ浦西駅については、沖縄自動車道との接続による広域交通軸の形成、本島中北部地域からの定時・定速性や時間短縮等の利便性向上を図る目的で整備されました。

## 3. てだこ浦西駅の特徴（基本情報）

- ▶ 浦添市内に位置するゆいレールの終点であり **那覇空港から37分** で到着（運賃390円）
- ▶ 駅には **P&R駐車場が隣接（約1000台収容）** し、市街地への移動がスムーズ
- ▶ 駅前交通広場では**多様な乗換が可能**（バス・タクシー・シェアサイクル・自家用車K&R）
- ▶ 高速バスへ乗り換え、**本島中北部の主要観光地などへの移動がスムーズ**



#### 4. てだこ浦西駅の現状・課題

- 現状のてだこ浦西駅は、高速バス、路線バス等の二次交通の結節が十分とは言えず、駅で乗り換えられる移動手段も限定的であるため、駅における乗換機能の強化を図る必要がある。
- また、人が交流したり、滞留するような賑わい環境が整っていないため、駅横の高架下や交通広場の空間を活用し、賑わい・溜まり場などの施設の充実を図る必要がある。

##### ■駅周辺の立地状況（主要施設、周辺バス停）



##### ■駅利用者などからのご意見



## 5. 交通結節機能強化の整備方針（案）

- 関係自治体や有識者、交通事業者、地域団体等との意見交換や、住民ワークショップなどのPI（パブリック・インボルブメント）によるご意見も踏まえ、以下3つの機能をベースとした整備方針（案）をまとめました。

### 交通（乗換）機能

- ▶ バス（路線・高速・地域内）の結節強化
- ▶ 乗換案内の強化、待合環境の整備
- ▶ モビリティハブの整備
- ▶ レンタカー機能の配置
- ▶ P&R駐車場、駐輪場等の受入環境整備

### 拠点形成機能

- ▶ 高架下や交通広場を活用した、賑わい・交流・滞留空間の創出（施設、広場）
- ▶ 目的毎に利用できる施設・体験等の提供
- ▶ まちづくりと連携し、若者や子育て世代も利用しやすい場の提供

### ランドマーク機能

- ▶ 観光や災害情報等の提供
- ▶ 安全、安心なまちづくりとの連携
- ▶ プランディング（てだこ浦西駅らしさ）



## 6. 検討の流れ

- 令和6年度は、現状分析・課題把握や、関係者へのヒアリング・住民等へのアンケート調査を実施し、関係者会議による意見交換も踏まえ、交通結節機能強化に関する整備方針（案）を整理しました。
- 令和7年度は、より幅広に多様な意見を取り込むため、住民等参加型のワークショップ等（PI）を実施し、関係自治体や有識者、交通事業者等も含めた検討会にて意見交換を行ったうえで、交通結節機能強化整備計画（案）を作成する予定です。
- 令和8年度は、上記の検討を踏まえ、必要な機能において実証実験等を実施し、交通結節機能強化整備計画を策定する予定です。

令和6年度

### ■ 整備方針（案）の作成

令和7年度

#### ■ 検討会の設置

有識者、交通事業者、民間事業者、行政組織等の関係者からなる検討会を設置し意見交換を実施。



ワークショップ



オープンハウス

令和8年度

#### ■ PI（住民等参加型）

住民や学生等によるワークショップや、オープンハウス、アンケート等により幅広に意見聴取。



デジタルサイネージ案内（事例：岐阜駅）

#### ■ 実証実験の実施

2次交通等の試験的導入、憩いの場・デジタル案内板の仮設置など、必要な機能において実証実験を実施。



にぎわいイベント（ゆいレール祭り）

#### ■ 整備計画の策定

PI、実証実験等を踏まえ、整備計画を策定。

令和9年度以降

#### ■ 事業の実施・展開

整備計画も踏まえ、各事業主体が連携して取り組み、展開を図る。